

# 解 答 速 報



## 聖マリアンナ医科大学 一般選抜前期

1		
[1]	<p>(a) 夏のような食べ物が周りに豊富に存在するときにあらかじめ自分の好みの食べ物の範囲を拡大しておくのか、厳しい冬のような食べ物が不足してきたときに自分が食べられる食べ物の範囲を拡大することを余儀なくされるのかという様々な動物の食習慣に関する疑問。</p> <p>(b) イエローストーン国立公園の草食動物たちが、いったいどうやって 1 年を通じてずっと十分な量の食べ物を得ているのかという疑問。</p>	
[2]	(あ) GPS	(う) metabarcoding
	(い) dietary DNA data	(え) fecal samples
	(i) b	(ii) d
[3]	<p>小型の動物は夏に牧場や牧草地で食糧を探す、冬には谷に集まって手に入る限られた植物で厳しい時期をしのぐ一方で、食糧競争を避けられるほどの体長である大型動物は、小型動物では行きつけないような雪深いところへ植物を探しに行く。(110 字)</p>	
[4]	<p>どちらのやり方がどの時期にうまく作用するのかに関しては動物の大きさや種類によって異なるものの、その 2 つの仮説は両方正しかったということ。(68 字)</p>	
[5]	<p>今回の発見が役立つ、環境保護団体が資源の保全をよりうまくでき、草食動物が年間を通して生き延びる助けとなること。</p>	

2					
	1	2	3	4	5
	(d)	(c)	(d)	(c)	(b)

3						
I	1	2	3	4	5	
	(d)	(c)	(a)	(b)	(c)	
II	1	2	3	4	5	A
	(f)	(d)	(b)	(i)	(h)	(d)

～講評～

- 1 : 「季節ごとの食物の利用可能性の変化に国立公園の草食動物たちがどう対処しているのかという疑問」について論じた英文だった。昨年は例年と比べて大幅に記述量の減少を見せたが、今年は例年の記述量に戻った印象。実験・研究の手法・目的・結果・展望などをまとめさせるという本大学の好みの出題形式が踏襲されていた。[1](a)については、This の指示内容の特定は容易だっただろうが、前パラグラフ後半の内容を盛り込まなければ、十分な説明ができない作りであった。[3]は、100 語を超える説明問題の出題は私立医大では稀であるし、日本語をまとめる作業も必要だったので、日本語表現の訓練を日頃からどれだけ行ってきたかで差がつく問題であろう。
- 2 : 「左脳・右脳神話の誤解」について論じた英文であった。記号選択式の出題という点では、例年の大問 2 の出題通りだが、例年とは出題形式が変わり、下線部の内容説明や、段落要旨に関する内容一致問題の出題となっていた。
- 3 : ポスターに 5 つの空所が設けられ、文脈に適するフレーズや文を入れる形式の問題。例年は、前文で与えられた状況に論理的・文法的・文脈的に適する文を選ぶ問題が出題されていたため、マイナーチェンジが施された。難易度が難しくなったわけではないし、例年の問題と趣旨が大きく異なる問題でもなかったため、受験生も冷静に対処できたのではないと思う。

大問構成は例年通りだが、大問 2 と大問 3 では出題傾向の変化があった。ただし、90 分という十分な試験時間を考慮に入れると、これらの変化が合格最低点に影響するとは思えない。差が付くのは、大問 1 での記述答案の作成、そして記述量増加の方であろう。合格には 70%前後を目指したい。



メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！  
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。



<p><b>渋谷校</b></p> <p>☎ 0120-142-760 東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p><b>名古屋校</b></p> <p>☎ 0120-148-959 名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p><b>大阪校</b></p> <p>☎ 0120-142-767 大阪府吹田市広芝町 4-3 4 江坂第 1 ビル 3F</p>
<p><b>個別専門館 麴町校</b></p> <p>TEL : 050-1809-4751 東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p><b>京都校</b></p> <p>TEL : 075-746-4985 京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p><b>医学部特訓塾</b></p> <p>TEL : 03-6279-9927 東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>